紀州地域本部 NEWS & TOPICS

南部高校 × 紀州地域本部 コラボ弁当を販売！

紀州地域本部は、地域とのつながり強化の一環で、みかん、ウスイ、キヌサヤ、ミニトマトを南部高校に提供し、食と農園科調理コースの生徒がこれらの食材を使ったお弁当を作りました。12月11日には、JAの直売所 ほんまもんふるさと産地直売所で販売し、「おかずの種類が多くて健康的」「味付けが美味しい！」と大好評で完売しました。今後もインスタグラムや店頭で販売日をお知らせします。

ほんまもん インスタグラム

フレッシュマート インスタグラム

各地でみかんの消費宣伝を実施

12月中旬～下旬にかけて、東京・大阪のスーパー7カ所でJA職員が早生みかんの消費宣伝を行いました。職員がお客様に「今年のみかんは糖度が高いです！」と声をかけながら、紀州産のみかんをPRし、試食されたお客様からは「やっぱり和歌山のみかんは美味しい！」と大好評。その場で購入される方も多くいらっしゃいました。

12/14 第3回「紀州フレンズ」ミニトマト収穫体験

紀州地域本部では組合員の皆さまにJAについてより深く知ってもらい、組合員としての在り方についても理解を深めていただきたいという思いから「紀州フレンズ」を募集し、第3回目の企画として、印南町のハウスにてミニトマト（優糖星）の収穫体験を行いました。当日は15人が参加し、ミニトマト部会の皆さま・営農指導員によるサポートのもと体験。参加者は収穫したてのミニトマトをその場で試食し、甘さや新鮮さに驚いている様子で満喫していました。

12/12 いなみこども園・いなみっ子交流センターに「ゆらっ子」を贈呈！

紀州地域本部は、こども食堂への贈呈に続き、いなみこども園といなみっ子交流センターにも「ゆらっ子」5kgを計9箱贈呈しました。当日はJAの役職員が園を訪問し、「美味しいみかんを持ってきました。みかんを食べて、元気に冬を過ごしてくださいね」と子どもたちに声をかけながら、みかんの箱を手渡しました。みかんを受け取った子どもたちは、にこにこ笑顔でとても嬉しそうな様子でした。贈呈したみかんは、今後おやつなどに活用していただけるとのことです。

1/13 湯川支店がOPEN！ 開店式を実施

老朽化に伴い、昨年5月より新築工事を進めていた湯川支店が、1月13日に待望のオープンを迎え、これを記念して開店式が行われました。当日はJA関係者や施工業者などが出席し、芝副組合長より「これまで耐震構造などに不安がありましたが、皆さまのご協力のおかげで、立派な支店が完成しました。今後も組合員の皆さまのために尽くせるJAでありたい」と挨拶がありました。新しい湯川支店は、鉄骨2階建て延べ床面積545.34㎡の建物です。広々とした駐車場や多目的トイレ、個別の相談室など、利用者や職員にとって快適にご利用いただける設備が整っています。大土支店長は「今後も地域の皆さまに寄り添った支店となれるよう、一生懸命努めてまいります」と話します。

第9回

in 印南町体育センター

くのいちフェスティバル

1月17日、女性会主催のくのいちフェスティバルが開催されました。女性会員をはじめ、印南町周辺で活動されているゲストの皆さまにもご協力いただき、販売や体験コーナーなど幅広いジャンルのブースが設置されました。当日は天候にも恵まれ会場は終始大賑わいとなりました。

今年も豊島美雪アナウンサーと和歌山県住みます芸人わんだーらんどのお二組が会場を盛り上げてくれました。

ステージ

わんだーらんど

和歌山琉風会

女性会サークル発表

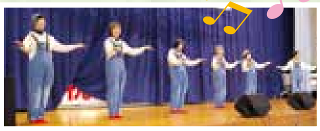
フラダンスサークル「ロコガール GOBO」

みなべブロック「スコップ三味線サークル」

古家学さん

川井聖子さん

いなみこども園



いなみブロック「ダンスサークル」

御坊北ブロック藤田支部「ハーブティー」

販売・体験ブース

かつお節削り体験

青年部も盛り上げてくれました！

最後は、毎年恒例のうすい豆まきで締めくくりました。

紀州競り市

市場の皆さまにご協力いただき、紀州の特産品などを参加者が競りました。会場は熱気に溢れ大盛り上がりでした‼

うすい豆まき

1/5 年賀式

地域本部にて年賀式を行いました。はじめに阪本地域本部長より年頭の挨拶があり、その後、資格取得者表彰が行われ30名の職員が表彰を受けました。

スターチス お正月向けに出荷

12月中旬～下旬にかけて、がいなポートや畑野集荷場ではお正月用のスターチスの出荷が行われ、京阪神や関東の市場を中心に全国へ出荷を行いました。今年産は猛暑の影響で例年よりやや出荷本数は少なめでしたが、品質は上々でした。これからは3月のお彼岸の需要期に向けて出荷のピークを迎えます。

中晩柑の目揃え会を開催！

1月9日に八朔・甘夏目揃え会、1月15日に不知火・はるみ目揃え会を、紀州選果場、ゆら集荷場などで開催しました。柑橘営業担当者からは、全国の産地状況について説明があり、今年度は全国的に中晩柑の出荷量が多くなる見込みであるとの報告がありました。また、営農指導員からは、生育の概況として着果量が多いことや、防除に関する注意点について説明があり、販売担当者からは出荷規格や集荷計画について説明がありました。最後には一人ひとりが入念にサンプルの確認を行いました。

紀州 花野果市〈HIRO御坊店〉からのお知らせ

朝採りの新鮮な苺を
出品しています。

1/16 第1回 紀州地域本部　農機初荷式を開催

日高町の紀南農機資材事務所にて第1回 紀州地域本部　農機初荷式を開催し、JA役職員や農機具メーカーなど約40人が出席しました。初荷を行ったのは、昨年11月の展示会で成約した、トラクター、コンバインなどの農機具で、目標の3,500万円を大きく上回る4,800万円の売り上げとなりました。芝副組合長は挨拶で「日頃から組合員さんの気持ちに寄り添っている皆様のおかげです。JAで良かったと思ってもらえるよう、これからも精進していきたい」と話しました。その後、阪本地域本部長の音頭で乾杯し、拍手に包まれる中、農機具を積んだトラック10台の出発を参加者全員で見送りました。

うめ

2月は開花期です。結実安定生産の重要な時期です。

●ミツバチの設置・保護について

ミツバチは雨の降らない日で12℃以上・風速が3m以下の時活動が活発になります。

受粉不良園では、必ずミツバチを設置しましょう。（1箱／10a）

梅の開花期間中（貸し出ししたミツバチの回収が済むまで）は、ミツバチ保護のため農薬散布は絶対しないでください。

一度置いた場所を絶対に動かさないでください。

●交配の実施について

交配樹の少ない園地では、水を入れた容器に、交配樹を入れる等対策等を行ってください。

また、そのような園地については、満開後に高接ぎを行ってください。

●茶ガス症の対策について

開花期間中に不完全花（黄色っぽく・小さく・完全に開かない花）が多く、開花の不揃いや結実不良が見られる樹については、ウイルスに犯されている可能性があります。満開期には、判定しやすいので、その樹に目立つテープ等を貼り付け、剪定時に剪定道具を分けるなど適正な管理に努めてください。

※蜂の箱を閉めるのは回収日当日の夕方です！

前日の夕方や当日の朝に箱を閉めると、箱内が高温になり死んでしまうので間違えないように気を付けてください。

果樹柑橘

●土つくり

2月～3月は土つくり月間です。長年石灰を施用していない園では土壌が強酸性になって肥料の吸収が低下しますので計画的に施用してください。特にここ数年ゆら早生や不知火の高糖度品種は冬期に葉が黄色くなる症状が目立ちます。原因として夏の高温干ばつや成り疲れによる樹勢低下が原因だと考えられるため、積極的に有機物の投与や客土・中耕を行って通気性と細根量の確保を行ってください。異常気象が日常化しつつある今日、一度原点に立ち返り、強靭な樹体づくりを行いましょう。

●剪定

基本的には①主枝との競合枝の間引き②内向枝、立ち枝、下垂枝を除去③枯れ枝の除去を行ってください。（黒点病と緑斑症防止のため）

結果母枝が多く豊作型の樹では春枝の量を剪定で調節し同時に新梢の発生を促進させてください。

結果母枝が少ない不作型の園ではできるだけ昨年発生した春枝を残し、混み合った部分の枝のみ剪定してください。したがって無理に剪定をする必要はありません。

スプリンクラー設置園や樹高の高

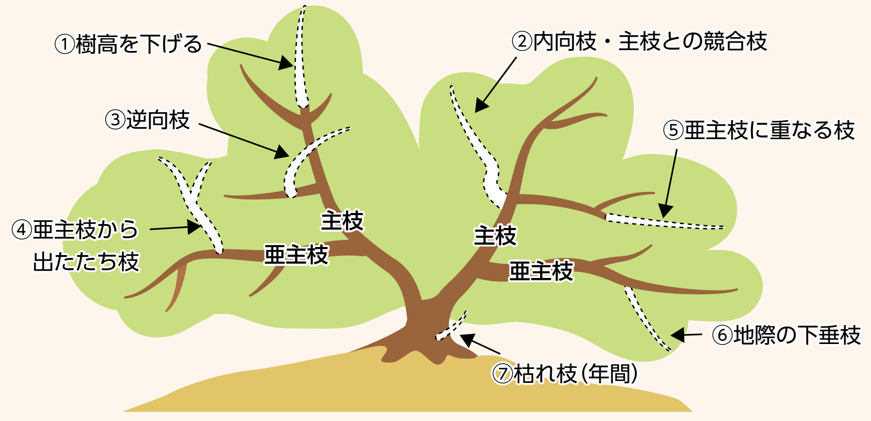


図１　温州みかんの剪定の基本

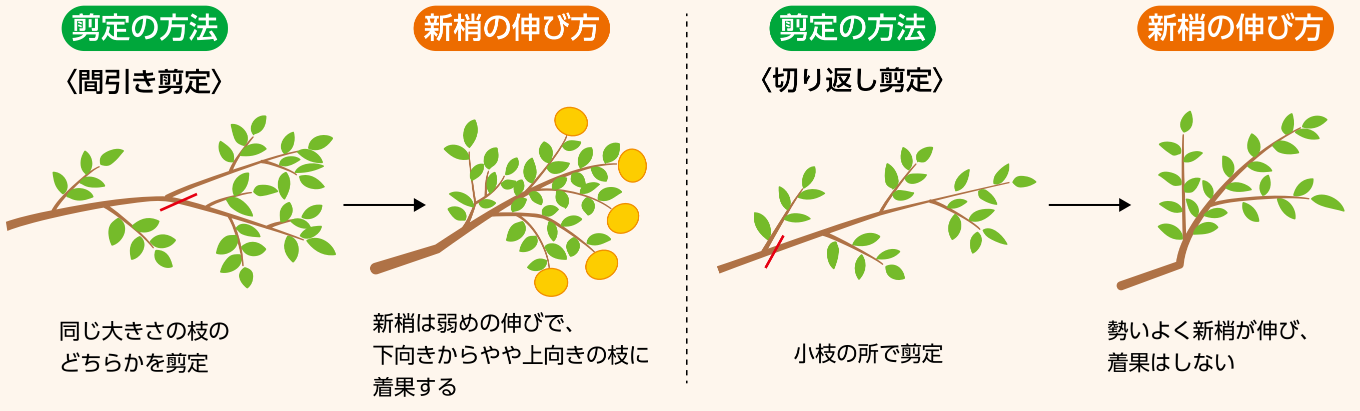


図２　切り返し剪定と間引き剪定の方法

〒649-1534 印南町印南 2003　TEL.0738-22-2480（代表）　FAX.0738-23-3223（代表）　メールアドレス：kumiaiinka-600@ja-wakayama.or.jp

い樹で枝が混み合い、薬剤がかかりにくいところはカイガラムシが発生しますので、間引き剪定を実施してください。

また、樹高の高い樹は2～3年かけて低い枝に更新しながら徐々に切り下げてください。一気に仕上げると樹勢低下や日が当たりすぎて樹脂病を引き起こすことがあるので注意してください。

近年、温州みかんの園地では剪定しすぎ（切りすぎ）の園地も見受けられます。温州みかんは切りすぎると糖度が上がりにくくなったり、浮き皮果を助長したりもしますので、あまり切りすぎないように注意してください。（樹の反対側の景色が良く見える場合は葉の数が少なく切りすぎです。）

●病害虫の防除

12月～1月にマシン油を散布していない園では3月中下旬にアタックオイル又はハーベストオイルを80倍で散布してください。この時期の散布はミカンハダニやサビダニの密度を下げる効果があります。また、収穫の終了した中晩柑類には、かいよう病の防除として3月中旬の発芽前から発芽直後にかけてICボルドー66Dを50倍にアビオンE 1,000倍を加用して散布してください。昨年多く発生した園では越冬してしますので必ず散布してください。なお、マシン油とICボルドーの散布間隔を約2週間はあけてください。

野菜

ミニトマト

○草勢管理

季節の変わり目になるため、天候が不安定な時期です。日々の気象にあわせたこまめなハウス開閉作業等を行なってください。

また気温上昇に伴い根が活発に活動してきます。草勢にあった着果量になるよう摘花（果）作業に努めてください。

降雨時の裂果が多くの圃場で確認されます。降雨前の収穫を心掛け、裂果軽減に努めてください。

○潅水作業

気温上昇に伴い潅水量は徐々に増加させていきますが、その際は草勢や土壌水分を良く観察し実施してください。

極端に潅水量を増やすと品質低下や裂果発生の原因となります。

反対に潅水量が少ないと、根痛みによるガクの黄化発生の原因となります。

○追肥

草勢を良く観察して施用します。

施肥量を間違えると、色ムラ果の発生など品質低下を招きますので十分注意してください。

○病害虫防除

葉かび病、うどんこ病、コナジラミ類の発生に注意し、早めの薬剤散布など予防対策に努めてください。

ピーマン・ナス

●湿度管理

2月を過ぎると気温が上昇することで、葉からの蒸散が多くなるとともに、着果量も増加してきますので、草勢維持管理を十分行ってください。午前中は湿度や温度（25～30℃程度）を保ち、午後からは換気を中心に、夜温はピーマンでは17℃を、ナスでは13℃を目安に管理してください。

●潅水・追肥

温度上昇に伴い、樹勢を見ながら、少量多回数を心がけてください。

●整枝

冬場に残していた内枝の整理を行い、主枝中心に果実を収穫するよう整枝を行ってください。また、側枝は伸ばさず、ピーマンについては常に1～3節、ナスでは1節で摘芯してください。

摘芯が遅れると、収量と品質に大きく影響しますので、必ず早めの摘芯に努めてください。

●病害虫防除

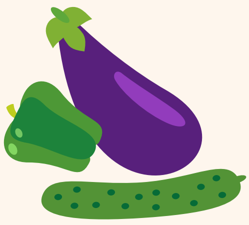
ハウス内が乾燥すると、果実の肥大や交配、光合成に影響を及ぼします。さらに着果量が増加することで草勢が低下し、うどんこ病の発生が助長されます。天気の良い日は畝間に軽く潅水し、ハウス内湿度を保つとともに、発生初期防除に努めてください。

●天敵導入園

害虫が増えてきますので、天敵の繁殖状況を確認し、少ない場合は早めに追加放飼をしてください。

また、引き続き粘着テープの併用も効果的で、ハウス入口、サイドなど害虫が発生しやすい場所に多く設置してください。

今後もスワルスキーや土着のタバコカスミカメが捕食できないアブラムシ、ヨトウムシ、クロテンコナカイガラムシの発生に十分注意してください（防除等については営農指導員にご相談ください）。



キュウリ

寒さが緩んできたら蒸込み管理は控え、25℃目安に外換気を開け始めてください（ハウス内28℃維持目安）。また、日射が徐々に強くなり蒸散量が増してくるので、1日の潅水を2回に分け、ハウス内の気温が20℃を超えた時と25℃を超えた時の2度潅水を行ってください。ただし潅水のしすぎは土壌が酸欠になりやすいので気を付けてください

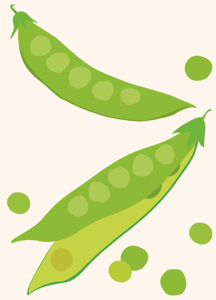
気温が上がってくると元肥の分解、吸収が強まります。高濃度の追肥は養水分の吸収を阻害するので薄い濃度にし、吸収しやすい追肥にしてください。

病害虫は、べと病・うどんこ病・アザミウマ類・コナジラミ類を中心に防除してください。

豆類

○ハウスウスイ・キヌサヤ

気温の上昇に伴い生育が早くなっていきますので、収穫遅れがないように注意し、潅水はこまめに実施してください。



○春取りうすい・整枝作業

- 降霜の危険性が無い場所から整枝を行ってください。
- 整枝本数は、圃場条件によって調整してください。
- 適期収穫を心がけ終盤まで草勢の維持に努めてください。
- 病害虫の発生に注意し、適期防除を行ってください。

ニンニク

降雨が多く圃場に水が溜まりやすい状態は春腐病の発生が懸念されるので、防除及び排水対策に努めてください。

4月に入ると摘蕾の時期になってきます。トウは伸びきってから少しうつむいた時に摘蕾してください。早すぎると分球しやすく、遅いと球肥大が遅くなり着色の割合が高くなるので注意してください。収穫は、摘蕾後10日～14日後を目安に下葉が1／3程度黄変した頃です。

- 春腐病　ICボルドー66D（50倍）
- さび病　オンリーワンフロアブル（1,000倍／収穫7日前まで／3回以内）

小玉スイカ

一斉着果を目指すスイカ栽培において初期生育は重要なポイントとなりますの以下のことに注意し栽培管理に努めてください。

定植準備～定植

- 前作の栽培終了後には、ハウスを閉め切りハウス内の害虫の駆除をおこなってください。
- 耕うんの際は土壌水分状態に注意してください
- 定植時の水分状態、地温の確保が重要なポイントとなりますので畝芯までの潅水作業や早めに畝立てマルチングの準備等を行ってください。
- 初期の根張り促進のため鉢土が乾燥しすぎないよう定植前に十分な潅水（どぶ漬け等）を行ってください。
- 定植苗にアブラムシ、ヨトウムシ、コナジラミ等に対する粒剤や液剤の薬剤施用を行ってください。

※本年度もコナジラミ等害虫の発生が予想されますので前作終了後ハウスの閉め込み作業の実施をお願いします。

花き類全般

スターチス

彼岸需要期に向け、圃場条件に応じた潅水、温度、肥培管理を行ってください。

肥切れや水分不足で草丈が短くなりますので十分に注意してください。

また、灰色かび病は発生すると防除が難しくなるので定期的な防除や換気管理を行ってください。

害虫ではダニ、アブラムシの発生に注意してください。

カスミソウ

日射量の増加とともに開花スピードも速くなってきますので収穫遅れが無いように注意してください。2番花の管理について、蒸し込みをする場合は日中作物に直接風が当たらないよう注意しながら換気を行い、夜間は閉めることで乾燥がおこらないよう努めてください。

病害虫ではダニ、アブラムシ、うどんこ病の発生に注意してください。

スイートピー

日射量の増加とともに開花が早くなりステムが短くなりやすい為、草勢維持に努めてください。晴天が続くと予想される場合、潅水は日中の午前中に行い、草勢を見て徐々に潅水回数を増やしてください。花シミも発生しやすくなってきますので灰色かび病の発生には十分注意してください。